

刊行にあたって

京都府立大学考古学研究室は、1994 年4月に京都府立大学史学科内に発足しました。昨年度末にはめでたく30 周年を迎え、この間、菱田哲郎先生や向井佑介先生、諫早直人先生の指揮のもと、京都府内各所や兵庫県播磨地域などを中心に数多くの古墳や寺院をはじめとする発掘調査や測量調査、出土資料の報告作業などを手がけてきました。その成果は、これまでに刊行された発掘調査報告書や自治体史、文化遺産叢書などに取りまとめられています。

2008 年4月には、歴史学科のなかに文化遺産学コースが設置され、考古学もその一分野を担うこととなりました。このことにより、文献史学や地理学、文化情報学、建築史学といった諸分野と共同でフィールドワークをおこなう機会が大幅に増えました。多角的な視点から文化遺産を学ぶ機運が醸成され、その成果の一端はこれまでの文化遺産叢書にも反映されています。学生たちは、こうしたさまざまな活動を通じて多くの経験を積み、考古学研究室からは毎年のように全国各地に文化財専門職員を送り出しているところです。

こうしたなかで、卒業生を中心にして記念の研究論文集を作成してはどうか、という声が自然と湧き上がって参りました。昨年度末に考古学研究室は30 周年を迎えましたが、本年度は研究室発足に携わった菱田哲郎先生のご退職の節目の年となるため、このタイミングで日頃の研究や日常業務における成果を一冊の論集として取りまとめ、文化遺産叢書として刊行する運びとなりました。本書の内容をより多くの方にご覧いただき、ひろくご活用いただければ幸甚に存じます。

本書の刊行に際して、文化遺産学コースの先生方や卒業生のみなさまから多大なご協力・ご理解を賜りましたことを深く感謝申し上げます。考古学研究室の伝統が、40 周年、50 周年と末永く継承され、論集として巻を重ねることができるよう祈念する次第です。